

教育目標		心豊かでいきいきと生活する子ども			
重点目標		1 一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育をすすめる。		2 友だちと共に伸びようとする仲間づくりを進める。	
項目		重点項目		具体的施策	
豊かな学力的向上	自ら学び自ら考える力の育成	・自分で考え決定し、主体的に遊び込む力を育成する。	・全職員で子供の遊びについて共通理解を図るとともに、子ども自ら遊び込む、遊び込むに必要環境構築の工夫を行う。	・月2回短期指導計画について協議をする機会をもち、子供の姿や課題について共通理解を図る。また戸外遊びの環境について共通理解する事ができるように環境構成図を作成し、話し合機会をもつ。	・職員会議等で、教職員間で活発に意見交換をし、子供の育ちや課題、また、保育内容や環境構成、援助等について共通理解を図り、日々の保育に努めていく。
		・一人一人が感じ考え学びを深める事ができる教育課程を編成できる。	・学期ごとに教育課程の見直しをおこない、自園の実態に応じた教育課程を編成する。 ・月1回ピクトグラフ研修を実施する。 ・様々な自然に興味をもつよう、草花や樹木、落ち葉、虫など自然物や自然物を保育に取り入れ、保育室の自然コーナーの充実を図ったり、生き物を飼育したりする機会を増やす。	・地域の方に講師として来ていただき、ピクトグラフ研修を開催する事ができ、身近な自然に興味をもつことができた。 ・「研修で学んだことを異年齢児に伝える機会」を設けることができ、年長児が学ぶ機会だけとなってしまったため、異年齢児に伝える機会を作っていく環境づくりが必要である。 ・アンケートで85%の評価を得ることが出来た。	・職員会議等で、教職員間で活発に意見交換をし、子供の育ちや課題、また、保育内容や環境構成、援助等について共通理解を図り、日々の保育に努めていく。
	・日々の遊びの中で、運動遊びや律動に取り組む、健やかな体づくりに取り組む。	・日々の遊びの中で、運動遊びや律動に取り組む、健やかな体づくりに取り組む。 ・「ほけんだよりやクラスだより等を通して、基本的な生活習慣についてや子供の日々の様子等を密着する」 ・「ほけん」の話を基にけんこうカレンダーを随時配布し、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立につなげる。	・運動遊びの計画、保健活動の評価において肯定的な評価が80%以上になる。 ・積極的に保育の中で運動遊びや律動を取り入れる。 ・毎月ほけんだよりを配信し、保護者啓発を行う。 ・「ほけん」の話を月1回行い、けんこうカレンダーを配布し、園と家庭が連携しながら取り組む。	・楽しく運動遊びに取り組めるように、環境の構成や教師の役割などについて意見交換を行い、共通理解を図るとともに教師間で連携していく。 ・今後も子供自身が健康な体を大切にできる気持ちをもてるよう配慮する。園の健康教育の取り組みを密着し、家庭と連携しながら基本的な生活習慣の確立を目指す。	
	・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めていく。 ・組織的、計画的なインクルーシブ教育・保育の充実・充実を促す。	・個別支援を必要とする園児の情報交換を行い職員間で共通理解を図る。 ・担任と担当で連携し、個別指導計画を作成する。 ・必要に応じて、学校園コンサルテーションを利用する等、外部機関との連携を図る。	・月2回に1回保育会議を行い、子供の姿や課題について全職員で共通理解を図る。 ・年2回、個別指導計画の作成を行い、子どもの育ちを保護者と共有する。 ・幼児の実態や教師の要望に応じて、学校園コンサルテーションを年間3回は活用し、保育に生かす。	・特別支援対象児の記録を元に通達で会議をもち、育ちや課題、必要な支援について全職員で共通理解を図る。 ・年2回特別支援対象児の保護者に個別指導計画の作成、個別相談を実施した。また、個別の状況に応じてその都度保護者と話し合う機会を設けた。 ・学校園コンサルテーションを年間5回利用し支援方法について学び、実践に取り入れていくことができた。	・職員会議等で、教職員間で活発に意見交換をし、子供の育ちや課題、また、保育内容や環境構成、援助等について共通理解を図り、日々の保育に努めていく。
豊かな心・健やかな体の育成	子どもの健やかな体づくり	・日々の遊びの中で、自尊感情が高まるように、一人一人を十分に認め、自分も他者も大切にできるように、子どもの気持ちや考え、行動等を尊重した保育を実施する。	・保護者アンケートの「子供は自分を大切にできる(自尊感情)や他者や他者への敬意を学んでいる」という項目の肯定的な評価を70%以上とする。 ・自尊感情の育成について、保育の中で行っているこの情報交換を積極的に取り入れる。 ・園内研修、保護者研修を年1回以上行う。	・保護者アンケートでは、肯定的な評価を80パーセント以上得ることができた。 ・保育の中で、自分を大切に、友達を大切にできるように関わり、友達の良いところを知ったり自分の気持ちを伝えられるように取り組む。 ・DVD研修や子供の権利条約についての紙面研修を行うことができた。	・基本的な生活習慣をつける大切な時期で、園と家庭との連携が大切である。
		・自尊感情や他を思いやる気持ちを育む保育を実施する。	・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・特別支援対象児の記録を元に通達で会議をもち、育ちや課題、必要な支援について全職員で共通理解を図る。 ・年2回特別支援対象児の保護者に個別指導計画の作成、個別相談を実施した。また、個別の状況に応じてその都度保護者と話し合う機会を設けた。 ・学校園コンサルテーションを年間5回利用し支援方法について学び、実践に取り入れていくことができた。	・特別支援対象児が多人数に在籍し、また課題も多様化しているため、より保護者との連携を行い、実態に即した援助を行う。必要に応じて関係機関との連携を密に図っていく。
豊かな心・健やかな体の育成	特別支援教育の推進・充実	・自尊感情や他を思いやる気持ちを育む保育を実施する。	・保護者アンケートの「子供は自分を大切にできる(自尊感情)や他者や他者への敬意を学んでいる」という項目の肯定的な評価を70%以上とする。 ・自尊感情の育成について、保育の中で行っているこの情報交換を積極的に取り入れる。 ・園内研修、保護者研修を年1回以上行う。	・保護者アンケートでは、肯定的な評価を80パーセント以上得ることができた。 ・保育の中で、自分を大切に、友達を大切にできるように関わり、友達の良いところを知ったり自分の気持ちを伝えられるように取り組む。 ・DVD研修や子供の権利条約についての紙面研修を行うことができた。	・基本的な生活習慣をつける大切な時期で、園と家庭との連携が大切である。
		・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・特別支援対象児の記録を元に通達で会議をもち、育ちや課題、必要な支援について全職員で共通理解を図る。 ・年2回特別支援対象児の保護者に個別指導計画の作成、個別相談を実施した。また、個別の状況に応じてその都度保護者と話し合う機会を設けた。 ・学校園コンサルテーションを年間5回利用し支援方法について学び、実践に取り入れていくことができた。	・特別支援対象児が多人数に在籍し、また課題も多様化しているため、より保護者との連携を行い、実態に即した援助を行う。必要に応じて関係機関との連携を密に図っていく。
豊かな心・健やかな体の育成	人権教育の推進・充実	・自尊感情や他を思いやる気持ちを育む保育を実施する。	・保護者アンケートの「子供は自分を大切にできる(自尊感情)や他者や他者への敬意を学んでいる」という項目の肯定的な評価を70%以上とする。 ・自尊感情の育成について、保育の中で行っているこの情報交換を積極的に取り入れる。 ・園内研修、保護者研修を年1回以上行う。	・保護者アンケートでは、肯定的な評価を80パーセント以上得ることができた。 ・保育の中で、自分を大切に、友達を大切にできるように関わり、友達の良いところを知ったり自分の気持ちを伝えられるように取り組む。 ・DVD研修や子供の権利条約についての紙面研修を行うことができた。	・基本的な生活習慣をつける大切な時期で、園と家庭との連携が大切である。
		・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・特別支援対象児の記録を元に通達で会議をもち、育ちや課題、必要な支援について全職員で共通理解を図る。 ・年2回特別支援対象児の保護者に個別指導計画の作成、個別相談を実施した。また、個別の状況に応じてその都度保護者と話し合う機会を設けた。 ・学校園コンサルテーションを年間5回利用し支援方法について学び、実践に取り入れていくことができた。	・特別支援対象児が多人数に在籍し、また課題も多様化しているため、より保護者との連携を行い、実態に即した援助を行う。必要に応じて関係機関との連携を密に図っていく。
豊かな心・健やかな体の育成	教師の教育力の向上	・質の高い教育活動が行えるように園の教師の力を育成する。	・質の高い教育活動に向けて、幼児理解を基盤とした保育のあり方や環境構成について話し合った園内研究、共同研究を進めたい。 ・日々の子供の姿を把握し、必要な支援について話し合い、共通理解を図る。 ・教師それぞれが自己目標を設定し、他者の課題に向けて研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上を専ら行う。	・短期指導計画について隔週1回、に1回の会議を隔週1回実施し、保育計画や、幼児理解に基づいた話し合いを行い、共通理解を図る。 ・園内研究会を年間3回、共同研究園との交流を年間2回以上実施する。	・市内研究会の実施に向け、講師を招聘した園内研究会を年間3回、また園内の研修を学期に1回実施し、教職員の資質向上に努める。 ・共同研究園と共に学び合えるように、連携を密に取り、質の高い教育活動が行えるようにする。
		・質の高い教育活動が行えるように園の教師の力を育成する。	・質の高い教育活動に向けて、幼児理解を基盤とした保育のあり方や環境構成について話し合った園内研究、共同研究を進めたい。 ・日々の子供の姿を把握し、必要な支援について話し合い、共通理解を図る。 ・教師それぞれが自己目標を設定し、他者の課題に向けて研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上を専ら行う。	・短期指導計画について隔週1回、に1回の会議を隔週1回実施し、保育計画や、幼児理解に基づいた話し合いを行い、共通理解を図る。 ・園内研究会を年間3回、共同研究園との交流を年間2回以上実施する。	・市内研究会の実施に向け、講師を招聘した園内研究会を年間3回、また園内の研修を学期に1回実施し、教職員の資質向上に努める。 ・共同研究園と共に学び合えるように、連携を密に取り、質の高い教育活動が行えるようにする。
開かれた・信頼される園づくり	安全管理	・新型コロナウイルス感染症対策に努め、安心安全な幼稚園生活が過ごせるよう努める。	・ガイドラインや市教委からの通達に基づき、感染症対策を行う。 ・感染症などの状況把握を行い、早期予防に努める。 ・避難訓練や不審者対応、交通マナーなどの指導を定期的に実施する。 ・危機管理体制の整備を進める。 ・安全指導を進めていく。	・「安心、安全に生活している」という項目の肯定的な評価が80%以上になる。 ・日々感染症対策を行うとともに、感染症などの状況把握及び必要に応じた情報提供を行う。 ・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回行う。 ・月1回安全点検を行う。	・99%の肯定的な評価を得ることができた。 ・感染症などの状況把握に努め、教師間で情報を共有し、必要に応じた情報提供を行うことができた。 ・避難訓練、防災訓練を適宜行い、教師の役割配置や各々の役割などについて振り返ることができた。 ・安心、安全に生活できるよう、月1回の安全点検及び日々の安全確認に努める。
		・新型コロナウイルス感染症対策に努め、安心安全な幼稚園生活が過ごせるよう努める。	・ガイドラインや市教委からの通達に基づき、感染症対策を行う。 ・感染症などの状況把握を行い、早期予防に努める。 ・避難訓練や不審者対応、交通マナーなどの指導を定期的に実施する。 ・危機管理体制の整備を進める。 ・安全指導を進めていく。	・「安心、安全に生活している」という項目の肯定的な評価が80%以上になる。 ・日々感染症対策を行うとともに、感染症などの状況把握及び必要に応じた情報提供を行う。 ・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回行う。 ・月1回安全点検を行う。	・99%の肯定的な評価を得ることができた。 ・感染症などの状況把握に努め、教師間で情報を共有し、必要に応じた情報提供を行うことができた。 ・避難訓練、防災訓練を適宜行い、教師の役割配置や各々の役割などについて振り返ることができた。 ・安心、安全に生活できるよう、月1回の安全点検及び日々の安全確認に努める。
開かれた・信頼される園づくり	学校園情報の積極的な発信	・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。	・紙面やホームページ等を通して現在の様子を発信する。 ・月1回クラスだよりを発行したり、月4回以上ホームページを更新したとすることで、園教育の可視化を図る。	・園だより、クラスだより等を月1回発行、ホームページを月3回以上更新する。月1回保育参観等、保育の公開を行う。 ・保護者アンケートの「幼稚園は、園だよりやほけんだより、クラスだよりなどを通して園の情報や子供の様子を保護者や地域に伝えたい」という項目の肯定的な評価を80パーセント以上とする。	・今後も優りホームページ、ドキュメンテーションなどで教育内容や子どもの様子を伝え、保護者との信頼関係の構築に努め、理解、協力が得られるように取り組んでいく。
		・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。	・紙面やホームページ等を通して現在の様子を発信する。 ・月1回クラスだよりを発行したり、月4回以上ホームページを更新したとすることで、園教育の可視化を図る。	・園だより、クラスだより等を月1回発行、ホームページを月3回以上更新する。月1回保育参観等、保育の公開を行う。 ・保護者アンケートの「幼稚園は、園だよりやほけんだより、クラスだよりなどを通して園の情報や子供の様子を保護者や地域に伝えたい」という項目の肯定的な評価を80パーセント以上とする。	・今後も優りホームページ、ドキュメンテーションなどで教育内容や子どもの様子を伝え、保護者との信頼関係の構築に努め、理解、協力が得られるように取り組んでいく。
開かれた・信頼される園づくり	子育て支援	・預かり保育の充実を図り、子育て支援に努める。	・「預かり保育」利用者増加に伴い、より安全管理に努め、子供が安心して過ごせるような環境や活動内容を工夫する。 ・子供の様子や健康状態等教師間の連携を図ると共に、保護者との連携も密にし、子育て支援の充実にも努める。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を実施し、支援員と連携を図り、未就園児と保護者の様子等について職員間で情報を共有する。	・保護者が安心して子育てができる」と言う項目の評価を80%以上とする。 ・預かり保育の必要性に応じた対応ができるようにする。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を年間9回実施する。	・預かり保育の利用者が増え、保護者のニーズに応えるよう努めたことで、100%の評価を得た。子育て支援の充実につながっていると考える。職員や個別支援を必要とする子供の利用も増え、安全面において子育て支援員のサポートが必要であり人員配置が課題である。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」は、コロナ禍のため人数制限がある中、年間9回実施する予定であった。毎回定員を上回る参加者があり、未就園児の自然な交流を図ることができた。保護者が安心して子供と過ごせる場となっていた。また、保護者が人園前に幼稚園の様子を知ったりの教育について話を聞いたりできる機会となっていた。
		・預かり保育の充実を図り、子育て支援に努める。	・「預かり保育」利用者増加に伴い、より安全管理に努め、子供が安心して過ごせるような環境や活動内容を工夫する。 ・子供の様子や健康状態等教師間の連携を図ると共に、保護者との連携も密にし、子育て支援の充実にも努める。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を実施し、支援員と連携を図り、未就園児と保護者の様子等について職員間で情報を共有する。	・保護者が安心して子育てができる」と言う項目の評価を80%以上とする。 ・預かり保育の必要性に応じた対応ができるようにする。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を年間9回実施する。	・預かり保育の利用者が増え、保護者のニーズに応えるよう努めたことで、100%の評価を得た。子育て支援の充実につながっていると考える。職員や個別支援を必要とする子供の利用も増え、安全面において子育て支援員のサポートが必要であり人員配置が課題である。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」は、コロナ禍のため人数制限がある中、年間9回実施する予定であった。毎回定員を上回る参加者があり、未就園児の自然な交流を図ることができた。保護者が安心して子供と過ごせる場となっていた。また、保護者が人園前に幼稚園の様子を知ったりの教育について話を聞いたりできる機会となっていた。
開かれた・信頼される園づくり	業務改善	・業務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。	・業務日程を立て、計画的に職員会議や作業に取り組み。 ・業務分掌担当者や予め提案資料を配布して会議に臨むなど各職員が責任をもつて園運営に関わっていく。 ・定時退勤日、毎定時退勤日を業務日程に位置づけ、超過勤務削減についての意識を高める。	・教職員アンケートで業務改善の項目の肯定的な評価を70パーセント以上とする。 ・月1回作業日を設定し、全職員で効率よく作業に取り組む。 ・職員会議を時間を決めて行う。 ・月1回の定時退勤日、マイ定時退勤日を実施する。	・業務日程に基づき、各担当者が責任をもって検討事項を提出し、計画的に会議や作業に取り組み。業務改善における教職員アンケート結果は90%であった。 ・必要に応じて保護者の協力を得ながら、作業時間を決めて効率よく作業を行うことができた。 ・定時退勤日、マイ定時退勤日を位置づけているが、毎時退勤設定、作業、事務処理、コロナ対策、出張等仕事量が多く、超過勤務削減については引き続き課題である。
		・業務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。	・業務日程を立て、計画的に職員会議や作業に取り組み。 ・業務分掌担当者や予め提案資料を配布して会議に臨むなど各職員が責任をもつて園運営に関わっていく。 ・定時退勤日、毎定時退勤日を業務日程に位置づけ、超過勤務削減についての意識を高める。	・教職員アンケートで業務改善の項目の肯定的な評価を70パーセント以上とする。 ・月1回作業日を設定し、全職員で効率よく作業に取り組む。 ・職員会議を時間を決めて行う。 ・月1回の定時退勤日、マイ定時退勤日を実施する。	・業務日程に基づき、各担当者が責任をもって検討事項を提出し、計画的に会議や作業に取り組み。業務改善における教職員アンケート結果は90%であった。 ・必要に応じて保護者の協力を得ながら、作業時間を決めて効率よく作業を行うことができた。 ・定時退勤日、マイ定時退勤日を位置づけているが、毎時退勤設定、作業、事務処理、コロナ対策、出張等仕事量が多く、超過勤務削減については引き続き課題である。

学校関係者評価総括

・感染対策を行いながらも、日々成長する園児にできる限りの体験ができるようにと保育内容を検討し、実施されたと思う。  
・研究の視点を一一人を生かす遊びの環境作り・視点を絞り、研究を進めていこうとする姿勢はよいと思う。経験年数の差のある教師間で、互いに意見交換やそれぞれの思いを主張できる雰囲気づくりに大切にして、互いの教育力を高めてほしい。

次年度に向けた重点的な改善点

・園児が自分の好きなことや得意なことを見つめ、皆で協力して取り組んだりチャレンジしたりする時間、生活習慣など健やかに安全にいらすためにしなければならないことをする時間など、今後も日々多様な経験を重ねながら、教職員が一致団結し、子供も、教師自身もいきいきと生活し、成長してほしいと思う。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った